

平成 26 年度動物慰霊式

科学分析支援センター 畠山 晋

平成 26 年度埼玉大学実験動物慰霊式が 10 月 21 日(火)14 時 40 分から理学部 2 号館第一会議室において開催されました。主催は埼玉大学、そして科学分析支援センターが動物慰霊式の次第を取り仕切りました。実習や、卒業研究、そして研究の目的で実験動物を使用している方々、研究機構に属する教職員、そして動物の御霊に感謝し安らかな眠りを祈りたいという方々、合わせて 161 名の参加者がありました。

式は、畠山晋准教授(科学分析支援センター、埼玉大学動物実験委員会委員)の司会により進められました。小林哲也教授(埼玉大学動物実験委員会委員長)による開式のことばに続いて、坂井貴文教授(理工学研究科長)のあいさつがありました。愛玩動物の処分についての問題点を提示しつつ、動物に対してどのような気持ちで接することが重要であるか、ここに集まった皆が深く考えることを要望されました。続いて動物飼育室の利用者を代表して足立明人准教授(理工学研究科)より慰霊のことばが捧げられました。動物を使った実験をする意義について、我々は常に自問自答するべきであり、この命題について思いを新たにして考えたい、科学の発展に貢献するという目標のために犠牲となった動物への慈しみと感謝の気持ちを持ち続けなければならない、と述べました。次に参加者全員によって花が捧げられ、黙祷することによって、実験動物の御霊に対する深い感謝と安らかな眠りを祈りました。最後に小林秀彦・科学分析支援センター長のことばによって式が閉じられました。

動物慰霊式の開催を通じて、教職員・学生、研究者の方々がより深く動物愛護について考えていただける様に願います。また、動物実験についての動向は常に変化しております。これらを踏まえて、情報収集につとめ、本学において適切な動物実験と動物の飼養が行われることを希望してやみません。

